

(財)鳥取県労福協 第273号

み・く・ま

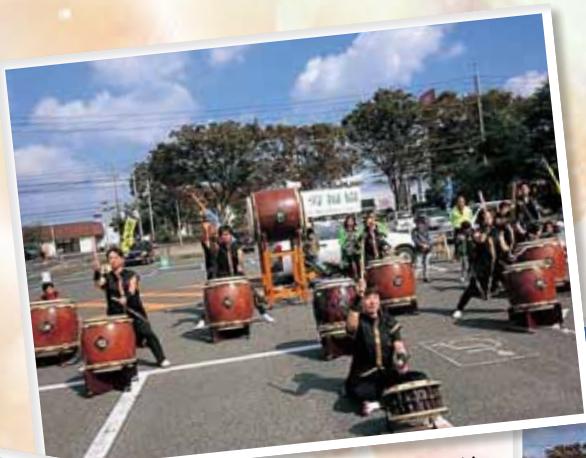
題字
柴山抱海書



開会あいさつをする西部支部遠藤支部長



作業所のバザーコーナー



伯耆町「風神太鼓」



屋台コーナーは大盛況でした



働く車大集合！！

労福協
西部支部

第8回労福協まつり

盛大に
開催
しました!

第273号 もくじ

新年ご挨拶	2 ~ 3
第48回鳥取県労働者スポーツ祭典結果報告	4
2011年度西部労福協第30回研究集会報告	4
第20回全国ボランティアフェスティバルTOKYO	5
中央労福協第60回定期総会報告	5
2011年度鳥取県に対する政策要請	6 ~ 7
鳥取県最低賃金	7
第58回鳥取県勤労者美術展	8

10月16日（日）米子産業体育館において、秋晴れの下「つながろうNIPPON労福協」「社会福祉協議会、障がい者の皆さんに車椅子を贈ろう」をメインテーマに、労福協まつりを開催しました。オープニングセレモニーとして、伯耆町「風神太鼓」でまつりをスタートし、すばらしい演技で会場を盛り上げていただきました。屋外・屋内イベントは、昨年以上の催し物を企画しました。また、恒例の「大抽選会」は、スタンプラリー制で、抽選券に3つのスタンプ（労福協）が集まった人から順に抽選できるようにしました。今回の労福協まつりもみなさまのご協力により、楽しく、賑やかに開催することができ、そして、メインテーマである車椅子を送ることが実現できそうです。本当にありがとうございました。この労福協まつりが秋の思い出の一つになればと思います。



財団法人鳥取県労働者福祉協議会

理事長 安田 邦夫

新年あけましておめでとうございます。

日本中を震撼させた昨年の大災害。被災地の皆さんの苦難と復興への嘗みが今年も続く訳ですが、今年こそ良い年になって欲しいとの思いが積のる年明けとなりました。

世情も、欧州の金融財政不安が世界的な影響を与え、日本経済にもその影響が広がる中で、雇用環境や貧困・孤立社会の変わらぬ状況を抱えつつ、政治的にも社会保障と税の一体改革など、「働くこと」「生活すること」それぞれに課題の多い年となると思われます。

私たちは、これらの現状に向き合い、労働者福祉運動の立場から勤労階層の安心・安全に繋がる社会の再生をめざさなければなりません。

鳥取県労福協として微力であっても、皆さんのご理解ご協力のもとで頑張り合いたいと思います。

構成員、ご家族、関係各位の皆さんのご多幸をお祈りし新年のごあいさつと致します。



日本労働組合総連合会鳥取県連合会

会長 五十嵐美知義

新年あけましておめでとうございます。

ご家族お揃いで、健やかな新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

また、日ごろより連合鳥取の運動に対しまして、あたかいご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年3月11日に発生しました東日本大震災は、10ヵ月近くが経過した今も、被災地はもとよりわが国全体の社会、経済に深刻な影響を及ぼしており、一刻も早い復興・再生が急がれます。

あわせて、わが国経済は、円高や国際金融危機など内外の情勢が一層厳しさを増しており、輸出産業はもとより、地域経済や雇用にも深刻な影響を与えています。

一方、鳥取県の雇用情勢においても企業再編などによる離職者の発生などにより、地元経済・雇用環境にも影響懸念が一段と深まっています。

このような中連合鳥取は、私達がめざす社会像として、『働くことを軸とする安心社会』の実現に取り組んでいます。

この安心社会のキーワードは『絆』・『支え合い』・『助け合い』であります。志を同じくする『労福協・連合・労金・全労済』が労働福祉のネットワークを最大限活かし、この実現に向け取り組みを推し進めていきます。

あわせて、地域に根ざした顔の見える運動をさらに前進させ、労働組合として社会的インフラの役割を發揮してまいります。

今後とも、労福協の皆さんと連携し、ともに力を合わせて運動を進めていきますので、よろしくお願い申し上げます。

2012年が皆様にとって、素晴らしいとしになることをお祈りし、新年のごあいさつと致します。

新年ご挨拶



中国労働金庫鳥取県営業本部

本部長 福田 光明

明けましておめでとうございます。

勤労者を取り巻く環境は、「東日本大震災」の影響や、円高・株安・デフレなど依然として厳しい状況が続いている。

私たち労働金庫は、「働く者の助け合い」で誕生した金融機関であることを常に原点に置き、皆様に一層「信頼され頼りになる勤労者福祉金融機関」をめざし、生涯にわたって皆様の生活支援にお役に立てるよう、役職員一丸となって邁進していく所存です。

本年が、より安全で安心して暮らせる社会でありますよう願いますと共に、皆様にとって一層の飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。

また、労働金庫に対しまして、引き続いてのご愛顧を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



全労済鳥取県本部

本部長 小東 照久

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は全労済鳥取県本部の運動に、格段のご理解とご支援を賜りました。役職員一同厚く感謝申し上げます。

さて昨年は、国の内外において多くの自然災害が発生いたしました。県内における西部地域を中心とした豪雪も記録に残る甚大な被害をもたらしましたが、とりわけ未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、世界中を震撼させるものでした。

これらの被害をつうじ幾度となく人々の支えあう姿が報じられてきましたが、改めて「なぜ私たちは共済を始めたのか」という原点に返って「保障の生協」としての役割・真価を發揮してまいります。

全労済では、東日本大震災を契機として新年度から、組合員の皆さんに防災・減災意識を高めていただく、生活再建への備えをすすめていただく「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を開催してまいります。

本年も変わらぬご支援・ご協力をお願ひいたしますとともに、皆様にとってすばらしい年となりますようお祈り申し上げます。



鳥取県生活協同組合

理事長 松軒 浩史

新年あけましておめでとうございます。昨年は東日本大震災をはじめ、全国各地で大きな災害に見舞われましたが、日本そして世界各地からの迅速で心温まる支援が、被災者を励ます大きな力になりました。鳥取県生協でも震災直後の義捐金の取組みや、人的、物的支援を続けていますが、これらの取組みを通じて、「助け合うこと」「人と人とのつながり」の大切さや価値が改めて思い起こされる契機になりました。

今年2012年は国連が定めた“国際協同組合年”にあたります。『協同組合がより良い社会を築きます』のスローガンのもと、協同組合が統一した方針や施策と連携を推進し、金融危機や食料安全保障、福祉充実や地域再生等へのアプローチが期待されています。協同組合の社会的役割と価値の認知を広め、協同組合運動の一層の発展を祈念し、新年のご挨拶とさせて頂きます。



鳥取医療生活協同組合

専務理事 池成 福巳

鳥取医療生協は1951年創立されました。敗

戦直後の鳥取は、戦災者援護、失業、結核の蔓延、乳幼児死亡など深刻な状況でした。

その中で、予防医学の普及と健康診断、勤労者自身のための大衆診療所が必要であると、478人組合員、139,700円の出資金で小さな診療所を開設しました。

それから60年。昨年、全組合員・職員が60年の歴史を振り返り、新たな展望・希望を共有する企画として『創立60周年記念事業』に取り組みました。また“一人ぼっちの組合員”をなくし、4万組合員が「いのちのネットワーク」でつながり、安心して住み続けられるまちづくりを進めてきました。

次の10年を展望して『歴史に学び、歴史をつくる』気概で、大きな夢とロマンをもって進んで行きます。

鳥取県労福協東部支部

支部長 森脇 一也

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は鳥取県労働者福祉協議会東部支部の活動につきまして、格別のご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。

昨年は未曾有の大災害となった東日本大震災の発生に始まり、日本経済を根幹から揺るがす円高の加速、世界では国家の崩壊を招きかねない金融危機と、とても暗いニュースが多い一年となってしまいました。

様々な要因により勤労者の生活環境は非常に厳しいものとなっていますが、我々が推進する労働者福祉活動は今後益々重要になってくると認識しています。今年は更に活動の輪を広げながら、皆が主役となって楽しめ、より連携が深まる様な活動を推進していきたいと考えますので、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

皆様によりまして、本年が明るく希望に溢れた一年となります様、ご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

ろうふく



鳥取県労福協中部支部

支部長 平信 憲一

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別なご高配を賜り有り難く厚くお礼申しあげます。昨年、中部支部長を仰せつかり、皆さまのご協力、ご指導を頂き誠に有難うございました。不慣れな面もありご迷惑をお掛けしましたが、2012年は労福協の活動により一層働きかける努力をして参りたいと存じます。

昨年はまさに波乱の一年でした。景気問題、雇用問題、年金問題、食の安全性問題など難題が山積している中、個人一人のでは出来る事は限りがあります。そんな中、組合員同士絆を持ち、より一層強い組織作りに取り組んでまいりたいと思っております。

皆様の一人一人のご協力を改めてお願い申し上げます。2012年が佳き年になるよう祈念致しまして、簡単ではあります、新年のご挨拶とさせていただきます。



鳥取県労福協西部支部

支部長 遠藤 憲二

新年明けましておめでとうございます。

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、労福協活動に格別のご理解と、ご支援をいたきましたことに、心より御礼を申し上げます。

昨年発生した未曾有の大震災において、全国から湧き起こった支援活動や復興ボランティア活動は、昨今失われつつあると言われてきた「助け合い、人と人とのつながり」が、人々の心に脈々と受け継がれていますことを、再認識させてくれました。

また、我々労働組合や協同組合も共助の基に支援活動等、様々な方向で大きな役割を果たし、連帯の必要性を示しました。

そして、人々の持つ「絆や支え合い」の精神は、労福協が掲げる「連帯、協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向けて、大きな力となり、一層前進していくことと確信しています。

本年も労福協の一員として、その一翼を担うべく地域に顔の見える取り組みを、皆様と共に連携をとり、邁進してまいりたいと存じますので、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



第22回 鳥取県労福協 囲碁・将棋大会開催のご案内



開催日時	2012年2月5日(日) 10時20分開会
開催場所	琴浦町生涯学習センター『まなびタウンとうはく』 〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万266-5 TEL: 0858-52-1111 FAX: 0858-52-1122
参加資格	※地区予選を勝ち抜いたチームが出場できます。 東部 2012年1月22日(日) 白兎会館 中部 2012年1月22日(日) まなびタウンとうはく 西部 2012年1月22日(日) 弓ヶ浜荘
参加料	無料
お問合先	鳥取県労福協事務局 〒680-0847 鳥取市天神町30-5 労働会館3F TEL (0857) 27-4188 FAX (0857) 24-8149 e-mail tottori@roufuku.jp [鳥取県労福協]で検索 ※ホームページから申込書がダウンロードできます。

第48回

鳥取県労働者スポーツ祭典 結果報告



今年の大会は、東部地区を中心に開催しました。地区予選・県大会195チーム・総勢1,860名が8種目の競技に挑みました。

今回、フットサル（エキシビジョン）を新しく競技種目に加えたところ、とても好評でした。

大会の結果は、下記のとおりです。入賞された皆様おめでとうございます。



種 目	競技会場	優 勝	最優秀選手賞
軟式野球	気高町運動広場野球場	米子機工	山本徹(米子機工)
ソフトボール	鹿野町運動広場 ソフトボール場	日庄スーパー技術者労組	枡田和樹(日庄スーパー技術者労組)
バドミントン	気高町体育館	全港湾境港支部	森本貴則(日庄スーパー技術者労組)
バレーボール男子	気高町勤労者 体育センター	県職連合本庁支部	西尾博之(県職連合本庁支部)
バレーボール女子		鳥取市職員労組	漆原暢子(鳥取市職員労組)
卓 球	気高町体育館	王子製紙新労米子支部	浜田司郎(王子製紙新労米子支部)
グラウンドゴルフ	白兎グラウンドゴルフ場	全日通米子	藤原侃(全日通米子)
ボウリング	倉吉プラザボウル	水野商事	寺西覚(水野商事) 松田紀子(全水道米子)
フットサル	鳥取県立障害者 体育センター	日庄スーパー技術者労組	米原悠貴(日庄スーパー技術者労組)

2011年度 西部労福協 第30回 研究集会報告

とき 2011年11月16日(水)～17日(木)

ところ ■ 1日目 「リーガロイヤルホテル広島」講演 報告
■ 2日目 「ろうきん森の学校」 視察 体験

西部労福協第30回研究集会が11月16日から17日にかけて広島市を中心として開催されました。

テーマの『環境・家族・健康について考える』は、東日本大震災で自然の営みの大きさを実感させられ、環境の大切さを学んだ事。ろうきん森の学校の取り組みを紹介した環境問題と健康に関する講演を通じて、環境の大切さ、家族・健康について考える機会にすることでの開催となったものです。

最初の講演は「ろうきん森の学校の取り組みと社会的意義について」NPO法人の志賀誠治さんより環境教育活動に取り組まれている経験など交えた講演で、環境を支える自然の必要さを訴えられました。

引き続き循環器・外科病院の松村先生より「三日坊主(ミカボ)シンドローム」と題し生活習慣での病気予防についてユーモアを交え、解りやすい解説で講演いただきました。

研究集会最後は中央労福協の行事「第43次欧州労働者福祉視察」の報告を、参加された連合愛媛の杉本事務局長より欧州での労働者福祉活動取り組みが紹介されました。

2日目は講演で紹介があった「ろうきん森の学校」での現地視察となりました。現地は広大な森林が切り開かれていましたが、労金職員と地元ボランティアの方々によって作られたものであることと、本日に至るまでの活動を、労金の前重さん(当初から森の学校に係る)より説明をいただき、参加者はその努力に感歎していました。

最後にソバ打ち体験もおこない自然環境の大切さを学んだ研修会でした。



研修会場



ろうきん森の学校



ソバ打ち体験

(事務局通信)

【報告】

第20回全国ボランティアフェスティバルTOKYO

(11/12~13)

今年ボランティア活動を初めて経験しました。今回の集会には、ボランティアの原点とは何か、労働者がなぜ社会貢献活動にとりくむ必要性があるのか、そしてどんな活動をしているかを学びたいと思い、参加しました。

- ・東日本大震災後、被災地の方々に対し、多くの国民の中に、何かをしたい、何かできることはないかという意識が生まれました。それが原点となり、一步踏み出して行動するのがボランティア。ボランティアの意義は、単なる支援・援助に留まらず、活動に参加した人自身が変わっていく力をもっていることに気づきました。
- ・企業には社会的責任（CSR）があります。社会貢献活動を行う目的は、社会や地域の課題解決のためであり、労働者がその活動を行うことは、地域社会の構成員としての責任を担うために必要なことです。

(活動例) 環境保全（間伐、植林、ウミガメ産卵地保全等）、復興支援（ベルマーク、書き損じはがき等）、福祉支援（支援を必要とする子どもたちへのITスキル講習、スポーツ大会等の企画、ミニカーの寄贈）、その他、活動に賛同する社員が毎月給与から固定額を拠出し寄付活動に役立てる（チャリティクリスマスカード）等・・・

「気軽にボランティアができるきっかけづくり」が、鍵になると感じました。



シンポジウムの様子

(報告 県教組 内田 孝)

中央労福協 第60回定期総会 報告



総会会場

2011年11月25日（金）東京「総評会館」に於いて、第60回定期総会が開催されました。主催者を代表し山本会長職務代行より「2年間を振り返ったとき、3月11日の東日本大震災は過去例を見ない大きな出来事であった。その後、笠森会長訃報もあり多くの偉人から若い人たちへと、世代交代が起こっているのではないか、労働運動・福祉運動の原点に立ち返ることが必要となってきた」と挨拶がありました。総会は193名の代議員の出席があり、議長より総会成立宣言後、議案審議に入りました。第1～2号議案が高橋事務局長、事務局、会計監査

より報告され満場一致で承認されました。休憩を挟んで第3号～4号議案（運動方針案、予算案）が提起され承認されました。第5号議案は役員の選出で新会長と新執行部が推薦提案され満場一致で承認されました。スローガンを採択後、新役員を代表して古賀新会長より「労福協60年連合20年数え、これから社会運動をどう描くべきか、皆さんと考えていきたい。」と挨拶がありました。新役員を紹介し原 日出夫（全労済専務）新副会長の閉会挨拶で終了しました。



古賀新会長

2011 年度 鳥取県に対する政策要請

11月22日（火）鳥取県知事宛に、「2011年度労働者福祉の充実に関する要請」として、格差・貧困社会の是正、地方消費者行政、ワーク・ライフ・バランスと子育て支援、中小企業労働者の福祉充実など12項目にわたる要請書を提出しました。

鳥取県の山根商工労働部長、三田雇用人材総室長、小



2011年度 鳥取県に対する政策要請

1. 労働者福祉運動・事業との連携・支援について

(1) 鳥取県労働者福祉協議会（以下、鳥取県労福協）は、かねてより鳥取県行政との連携をご支援をいただき、地域労働者の生活サポートと労働者福祉の環境改善に向けて諸活動を展開して参りました。

今後とも、労働者の生活サポートに関わる各種事業や調査・研修・啓発事業、文化・スポーツを通じての交流事業、ワーク・ライフ・バランスの推進など、具体的な展開にあたって、必要な連携と補助について継続していただくよう要請を致します。

(2) 今日の雇用労働を取り巻く環境のもとでは、労働法制を尊重する労務管理の促進や労使間トラブルの防止など、健全な雇用・就労を実現するための積極的な施策を必要としています。

現在、鳥取県の行なう中小企業労働相談所「みなくる」の事業運営については、鳥取県労福協が受託していますが、ノウハウの蓄積と継続的な運営体制が必要と考えられることから、今後とも鳥取県労福協の受託による事業継続について要請致します。

2. 格差・貧困社会の是正

(1) 第2セーフティーネットの充実について

不安定雇用の拡大や、就労希望者の未就業状態の拡大・長期化など雇用情勢の厳しさが依然続く中で、就業困難から生活困窮による生活保護（最終のセーフティーネット）者が急増するなど社会問題化し、財政負担の増加とともに保護基準の見直しや法改正の動きも顕在化しています。

本年10月から厚生労省の「求職者支援制度」がスタートするなど、「就業」と「生活」をパッケージとして支

援する、いわゆる「第2セーフティーネット」の方方が注目されつつあり、国・地方自治体ともに行政上の重要な課題として推進していく必要があります。

要請項目の就業・生活の困難者を支えるパーソナルサポート事業や、高校生の社会人前教育など意見交換を行ないました。

要請事項に対する県の回答は各部署と検討を行ない別途回答することとなりました。

【鳥取県対応者】

鳥取県商工労働部	部長	山根 淳史
〃 雇用人材総室	室長	三田 清人
〃 " 労働政策室	室長	小林 純子

【鳥取県労福協要請者】

鳥取県労働者福祉協議会	理事長	安田 邦夫
〃	副理事長	前田 厚彦
〃	副理事長	小東 照久
〃	専務理事	小泉 俊一

援する、いわゆる「第2セーフティーネット」の方方が注目されつつあり、国・地方自治体ともに行政上の重要な課題として推進していく必要があります。

県行政としても、県内の現状把握をもとに、公的セーフティーネットの充実を図る立場から、国に対しての一層の制度拡充を働きかけるとともに、関係機関との連携による就労・生活支援の充実策と、相談窓口のワンストップ化など地方行政としての第2セーフティーネット施策を一層推進されることを要請致します。

また、厚生労働省のモデル事業として各地で広がりつつある「パーソナルサポート事業」について、鳥取県としても事業の導入をされるよう要請致します。

(2) 経済的事情による子どもの教育格差の解消について

家計の経済的事情による子どもの教育格差をなくす取り組みについては、高校授業料の無償化、奨学金制度の利活用などを通じて一定の経済的負担は軽減されていますが、通学費用や、教材その他の保護者負担など、前記の措置だけでは補い切れない現状にあります。

また、卒業後の雇用状況に伴う貸与奨学金の返済負担など、現行奨学金制度だけでは解決できない状況も踏まえ、家計の困窮による教育格差を最大限解消する立場で、給付型奨学金の新設など、諸施策を更に推進されるよう要請致します。

3. 「協同労働」による「新しい公共」の創造について

(1) 2012年は、国連で決議された「国際協同組合年」を迎えます。民間的公共を担う協同組合の社会的役割を積極的に評価し、現在国においても「協同労働の協同組合法」の制定に向けた検討・準備作業が進みつつあります。

県政においても、これらの動きを注視し、「新しい公共」の担い手としての「協同労働による協同組合」の社会的意義を積極的に受け止め、地域における「協同労働による協同組合事業」の促進に向けた環境づくりを行なわれるよう要請致します。

4. 地方消費者行政の充実について

(1) 消費者相談・啓発機能の充実について

県民の消費トラブルを防止し、安心・安全の消費生活を送るためには、県の「消費生活センター」と、各市町村の相談窓口機能の充実が不可欠と言えます。

国の「消費者行政活性化基金」が終了する2012年度(有効期間～2013年度)以降の措置についても、引き続き地方行政の役割を堅持するとともに、相談体制のレベルアップや相談員の専門性の確保につながる処遇改善など、相談・啓発機能強化を一層推進されることを要請致します。

(2) 多重債務・悪質商法への対応について

改正貸金業法の完全施行により、ヤミ金被害者数は確実に減少し、同法が着実に効果を上げています。

「法施行による現場混乱」の宣伝や、貸金業法の再改正をもくろむ動きも伝えられるところですが、引き続き多重債務や金融トラブル被害者の相談体制や、業者の悪質・脱法行為の監視・取締りなど多重債務問題に対する諸施策を維持継続されるよう要請致します。

(3) 食品の安全確保施策の推進について

近年、畜産品の伝染病や生食用食品トラブルなど、「食」の安全・安心に関わる事象が惹起するとともに、原発事故による農・畜・水産品の放射能汚染への不安も広がり、食品の消費行動にも大きな影響を及ぼしています。

県民の食生活の安全・安心の確保と、無用の風評被害を排除し、正確な情報のもとで安心して消費行動が行えるよう、自治体としての食の安全チェック体制の強化と情報公開について一層の取り組みを促進されることを要請致します。

(4) 中山間地の高齢者等における買い物弱者対策の推進について

高齢者等における買い物弱者対策については、今春から経済産業省の補助事業もスタートするなど、高齢者等を抱える地域のインフラ機能としての施策が求められる状況にあります。

全国的に宅配・移動販売・交通手段確保など民間事業者やNPOなどとの連携による支援事業が展開されつつありますが、いずれにしても事業の継続性を確保す

るためには、民間事業者の経済効果も必要となります。

これらの状況を踏まえ、継続性ある事業としての仕組みづくりと各地域への展開を県・市町村が主体となって推進されるよう要請致します。

(5) 高校生の社会人前教育の推進について

高校生の社会人前教育として、金銭トラブル防止を中心とする消費者教育や、雇用契約・ワーカルールの基礎知識について、実例を踏まえた実践的講座によって広く浸透を図ることが必要と考えます。

県内高校における取り組み状況を検証し、未実施高校での取り組みの促進を図るとともに、その際、鳥取県労福協の出前講座の活用についてもご案内いただくよう要請致します。

5. ワーク・ライフ・バランスと子育て支援策の充実について

ワーク・ライフ・バランスの促進と子育て支援について、「子育て王国とつとりプラン」による施策展開を含め、県内企業の取り組みは浸透しつつあるものの、全体的には、未だ不十分な状況にあると考えられます。併せ、「次世代育成支援対策推進法」による「一般事業主行動計画の策定・届出」が、2011年4月以降、従業員101名以上企業も「義務」(従来は「努力義務」)化となりました。

年休取得の促進・活用など、具体的化への施策啓発を含め、職域におけるワーク・ライフ・バランスの促進と子育て支援に関わる啓発・指導を、更に強化・推進されるよう要請致します。

6. 中小企業労働者の福祉格差の是正について

現在、鳥取市、米子市で事業展開する「中小企業労働者福祉サービスセンター」は、国庫補助が2010年度を以って廃止されたことから、各サービスセンターでは、安定的な事業存続ができるよう懸命な努力を展開中です。

労働省(当時)が主唱の同事業は、県行政としても指導助言の役割が位置づけられたものですが、今日の状況下においては事業の継続に向けて課題が大きいのが率直な現状です。

中小企業の労働者福祉について、企業規模格差の是正とともに、ワーク・ライフ・バランスの推進、健康管理の促進と医療費負担の軽減など今日的課題にも寄与するものであることを含め、労政上の大切な課題として同事業の広域化、利活用のための広報・啓発、財政措置などについて支援策を検討し、事業体の維持・存続に向けて積極的役割を果たされるよう要請致します。

鳥取県最低賃金

1時間：646円 発効年月日：平成23年10月29日

詳しくは、鳥取労働局労働基準部賃金室(0857-29-1705)

又は最寄りの労働基準監督署へお尋ねください。





2011年12月8日(木)に鳥取県立夢みなとタワーにて審査会を行い、後援団体賞を含む32作品の入賞作品が決定いたしました。表彰式は、会期初日の12月11日(日)に行い32名の入賞者のうち19名の入賞者とともに賑やかな開幕となりました。

1. 鳥取県知事賞、鳥取県労働者福祉協議会理事長賞の入賞者

鳥取県知事賞

写真部門



「哀愁」
長谷川 利子 様
(日野町)

洋画部門



「レッスン」
田邊 美喜恵 様
(倉吉市)

日本画部門



「初夏のかおり」
坂本 幸恵 様
(鳥取市)

書道部門 「登樓」

柴崎 紅葉 様 (米子市)

鳥取県労働者福祉協議会理事長賞

写真部門



「雨上り」
阿部 穎男 様
(境港市)

洋画部門



「日野川源流、雨の日」
浜野 洋一 様
(米子市)

日本画部門



「残照シリーズ3」
浦木 敏正 様
(倉吉市)

書道部門



「古今集の歌」
上田 君子 様
(米子市)

2. 後援団体賞の入賞者

賞	部門	作品名	氏名又は雅号	市町村	賞	部門	作品名	氏名又は雅号	市町村
鳥取県経営者 協会会长賞	写真	フリースペース	森永 光信 様	八頭町	鳥取県商工会 議所連合会賞	写真	虚無僧行脚	武部 功 様	鳥取市
	洋画	大雪の蓮池(湖山池)	山下 夏江 様	鳥取市		洋画	祈り、ーお母さん お元気ですか、ー	柄田 修 様	鳥取市
	日本画	山湖	藤原 古城 様	智頭町		日本画	池	引田美千代 様	北栄町
	書道	杜牧詩	谷口 留仙 様	鳥取市		書道	六祖壇経	中林 静雲 様	鳥取市
中国労働金庫鳥取県 営業本部本部長賞	写真	見得を切る	後藤 栄 様	伯耆町	鳥取県商工会 連合会会長賞	写真	今日の波は…	佐藤 衛 様	鳥取市
	洋画	笑	足立多津子 様	境港市		写真	視線	竹歳 雅秀 様	北栄町
	日本画	潮騒	野口 昭子 様	伯耆町		写真	夜の舞踏会	中村 武 様	倉吉市
	書道	阮籍詩	大前 誠 様	伯耆町		洋画	吽形像	山田 重夫 様	湯梨浜町
全労済鳥取県本部 本部長賞	写真	好奇心	宮本 香子 様	江府町	鳥取県中小企業 団体中央会賞	写真	捕獲	尾田 達雄 様	米子市
	洋画	運ぶ人	吉岡香也子 様	米子市		写真	泥んこバレー の日	岩崎 瑞枝 様	米子市
	日本画	室生寺	竹本百合子 様	米子市		写真	祭りの頃	朝井 章二 様	境港市
	書道	七言対句	西垣 幸染 様	鳥取市		書道	釋六如	松嶋 澄雲 様	湯梨浜町

3. 来場者投票による入賞者

12月11日(日)からの来場者投票による人気投票の結果、各部門での入賞作品が決定し、会期最終日の12月18日(日)に表彰式を行いました。

部門	作品名	氏名又は雅号	市町村	部門	作品名	氏名又は雅号	市町村
写真	風浪	明石 孝史 様	米子市	日本画	樹	古田 啓子 様	鳥取市
洋画	NUDE	宗内 彰志 様	米子市	書道	易経語	早川 笙雲 様	鳥取市

発行責任者 安田邦夫
編集責任者 小泉俊一
編集委員 奥田康寛・中村勝・岡本藍子・谷口美紀
発行日 二〇一二年一月 発行 鳥取市天神町三〇番地五 (財)鳥取県労働者福祉協議会 第273号 TEL(0857)27-4188